

コホート内症例対照研究による個人の内部および外部被ばく線量<sup>\*1</sup>と悪性ないし悪性疑い発見との関連の検討（甲状腺検査登録症例のみ）

表1 マッチングモデル2による解析対象者の特性（症例群<sup>\*2</sup>・対照群<sup>\*3</sup>別）

	症例群 <sup>*2</sup>	対照群 <sup>*3</sup>	全体
受診者数			
症例群 <sup>*2</sup> ,人(%)	132(100.0)	0(0.0)	132(100.0)
対照群 <sup>*3</sup> ,人(%)	0(0.0)	396(100.0)	396(100.0)
女性,人(%)	76(57.6)	228(57.6)	304(57.6)
年齢,平均値(Q1-Q3)			
震災時年齢	13.0(10-16)	13.0(10-16)	13.0(10-16)
検査1回目受診時年齢	14.8(12-18)	14.9(12-18)	14.9(12-18)
検査2回目受診時年齢	15.2(12-19)	15.1(12-18)	15.1(12-18)
検査3回目受診時年齢	14.9(13-17)	14.8(12-17)	14.8(12-17)
検査4回目受診時年齢	17.0(14-19)	17.1(14-19)	17.1(14-19)
甲状腺等価線量 <sup>*1</sup> (mSv),最小-最大	(0.11-22.70)	(0.10-21.84)	(0.10-22.70)
甲状腺等価線量 <sup>*1</sup> (mSv),中央値(Q1-Q3)	2.3(1.27-3.52)	2.0(1.21-3.04)	2.1(1.22-3.17)
震災時住所地域,人(%)			
不明または県外	1(0.8)	2(0.5)	3(0.6)
13市町村	23(17.4)	51(12.9)	74(14.0)
中通り(13市町村以外)	67(50.8)	227(57.3)	294(55.7)
会津(13市町村以外)	13(9.8)	46(11.6)	59(11.2)
浜通り(13市町村以外)	28(21.2)	70(17.7)	98(18.6)
受診パターン(検査1,2,3,4回目) <sup>*4</sup>			
○---	64(48.5)	192(48.5)	256(48.5)
○○--	33(25.0)	99(25.0)	132(25.0)
○○○-	12(9.1)	36(9.1)	48(9.1)
○○○○	17(12.9)	51(12.9)	68(12.9)
その他	6(4.5)	18(4.5)	24(4.5)
B/C判定数,人(%)	132(100.0)	7(1.8)	139(26.3)
細胞診実施数,人(%)	132(100.0)	0(0.0)	132(25.0)
悪性・悪性疑い数,人(%)			
甲状腺検査登録症例	132(100.0)	0(0.0)	132(25.0)
がん登録のみ症例	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)

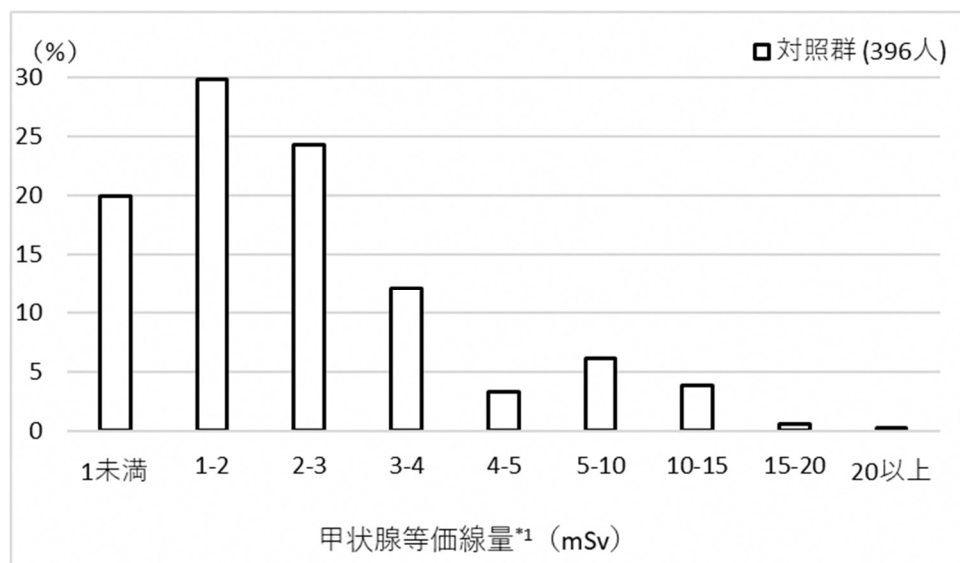
\*1 内部被ばく線量と外部被ばく線量の合算値（mSv；甲状腺等価線量）を使用。内部被ばく線量は2011年3月12日から3月25日までの詳細版行動調査票に基づき計算された、原発事故後14日間の水道水からの甲状腺等価線量+吸入被ばくによる甲状腺等価線量として算出し、外部被ばく線量は基本調査で評価された線量（実効線量）に甲状腺等価線量補正係数1.1を掛けた値として算出した。

\*2 症例は、先行検査から本格検査（検査4回目）または25歳時節目検査（平成4～6年度生まれ）までに確認された悪性・悪性疑い症例のうち「基本調査」の行動記録がある者とした。

\*3 対照は、症例に対し性・生年・悪性（疑い含む）判定検査回の一次検査受診年度・受診パターン（検査受診有無）をマッチングさせた者（行動記録がある者のみ）とし、症例：対照＝1：3の割合で無作為に抽出した。ただし受診パターンは症例が悪性・悪性疑いと判定された検査回とその直前の2回分を使用した。

\*4 ハイフン（“-”）は、症例が悪性・悪性疑いと判定された検査回より後の検査であることを示している。

図1 マッチングモデル2の対照群における甲状腺等価線量\*1の分布



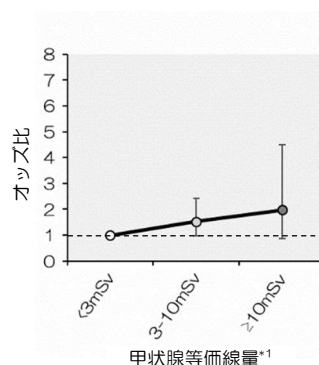
- \*1 内部被ばく線量と外部被ばく線量の合算値 (mSv ; 甲状腺等価線量) を使用。内部被ばく線量は2011年3月12日から3月25日までの詳細版行動調査票に基づき計算された、原発事故後14日間の水道水からの甲状腺等価線量+吸入被ばくによる甲状腺等価線量として算出し、外部被ばく線量は基本調査で評価された線量 (実効線量) に甲状腺等価線量補正係数1.1を掛けた値として算出した。
- ※ 症例は、先行検査から本格検査 (検査4回目) または25歳時節目検査 (平成4~6年度生まれ) までに確認された悪性・悪性疑い症例のうち「基本調査」の行動記録がある者とした。
- ※ 対照は、症例に対し性・生年・悪性 (疑い含む) 判定検査回の一次検査受診年度・受診パターン (検査受診有無) をマッチングさせた者 (行動記録がある者のみ) とし、症例：対照=1：3の割合で無作為に抽出した。ただし受診パターンは症例が悪性・悪性疑いと判定された検査回とその直前の2回分を使用した。

表2 マッチングモデル2による解析対象者の特性（甲状腺等価線量\*1別）

甲状腺等価線量*1	<3mSv	3-10mSv	≥ 10mSv	全体
受診者数				
症例群*2,人(%)	85(64.4)	37(28.0)	10(7.6)	132(100.0)
対照群*3,人(%)	293(74.0)	85(21.5)	18(4.5)	396(100.0)
女性,人(%)	212(56.1)	74(60.7)	18(64.3)	304(57.6)
年齢,平均値(Q1-Q3)				
震災時年齢	13.2(11-17)	12.4(10-16)	11.8(8-16.5)	13.0(10-16)
検査1回目受診時年齢	15.2(13-19)	14.2(12-17)	13.8(10-18.5)	14.9(12-18)
検査2回目受診時年齢	15.4(12-19)	14.6(11-18)	13.4(10-17)	15.1(12-18)
検査3回目受診時年齢	15.1(12-17)	14.7(13-17)	13.5(9.5-17.5)	14.8(12-17)
検査4回目受診時年齢	17.3(14-20)	17.1(14-18)	15.0(9-17)	17.1(14-19)
震災時住所地域,人(%)				
不明または県外	1(0.3)	2(1.6)	0(0.0)	3(0.6)
13市町村	43(11.4)	25(20.5)	6(21.4)	74(14.0)
中通り(13市町村以外)	240(63.5)	54(44.3)	0(0.0)	294(55.7)
会津(13市町村以外)	59(15.6)	0(0.0)	0(0.0)	59(11.2)
浜通り(13市町村以外)	35(9.3)	41(33.6)	22(78.6)	98(18.6)
受診パターン(検査1,2,3,4回目)*4				
〇――	185(48.9)	59(48.4)	12(42.9)	256(48.5)
〇〇――	101(26.7)	25(20.5)	6(21.4)	132(25.0)
〇〇〇――	32(8.5)	12(9.8)	4(14.3)	48(9.1)
〇〇〇〇	43(11.4)	21(17.2)	4(14.3)	68(12.9)
その他	17(4.5)	5(4.1)	2(7.1)	24(4.5)
B/C判定数,人(%)	89(23.5)	39(32.0)	11(39.3)	139(26.3)
細胞診実施数,人(%)	85(22.5)	37(30.3)	10(35.7)	132(25.0)

- \*1 内部被ばく線量と外部被ばく線量の合算値（mSv；甲状腺等価線量）を使用。内部被ばく線量は2011年3月12日から3月25日までの詳細版行動調査票に基づき計算された、原発事故後14日間の水道水からの甲状腺等価線量+吸入被ばくによる甲状腺等価線量として算出し、外部被ばく線量は基本調査で評価された線量（実効線量）に甲状腺等価線量補正係数1.1を掛けた値として算出した。
- \*2 症例は、先行検査から本格検査（検査4回目）または25歳時節目検査（平成4～6年度生まれ）までに確認された悪性・悪性疑い症例のうち「基本調査」の行動記録がある者とした。
- \*3 対照は、症例に対し性・生年・悪性（疑い含む）判定検査回の一次検査受診年度・受診パターン（検査受診有無）をマッチングさせた者（行動記録がある者のみ）とし、症例：対照＝1：3の割合で無作為に抽出した。ただし受診パターンは症例が悪性・悪性疑いと判定された検査回とその直前の2回分を使用した。
- \*4 ハイフン（―）は、症例が悪性・悪性疑いと判定された検査回より後の検査であることを示している。

図2 マッチングモデル2による甲状腺等価線量<sup>\*1</sup>における悪性ないし悪性疑い発見のオッズ比（甲状腺等価線量<sup>\*1</sup>別）



- \*1 内部被ばく線量と外部被ばく線量の合算値（mSv；甲状腺等価線量）を使用。内部被ばく線量は2011年3月12日から3月25日までの詳細版行動調査票に基づき計算された、原発事故後14日間の水道水からの甲状腺等価線量+吸入被ばくによる甲状腺等価線量として算出し、外部被ばく線量は基本調査で評価された線量（実効線量）に甲状腺等価線量補正係数1.1を掛けた値として算出した。
- ※ 症例は、先行検査から本格検査（検査4回目）または25歳時節目検査（平成4～6年度生まれ）までに確認された悪性・悪性疑い症例のうち「基本調査」の行動記録がある者とした。
- ※ 対照は、症例に対し性・生年・悪性（疑い含む）判定検査回の一次検査受診年度・受診パターン（検査受診有無）をマッチングさせた者（行動記録がある者のみ）とし、症例：対照＝1：3の割合で無作為に抽出した。ただし受診パターンは症例が悪性・悪性疑いと判定された検査回とその直前の2回分を使用した。
- ※ 垂直方向の直線は95%信頼区間を表している。